

移動販売

商店街の個人商店からの仕入れによる移動販売 ～ 岐阜県飛騨市の中山間地域での挑戦～

1 概要

- ・ 地元神岡出身の坂本佳祐氏が、商店街の個人店舗から商品を仕入れるという独自のビジネスモデルで移動販売と地域の活性化を両立。飛騨市は中山間地域と豪雪地帯のため採算性が厳しいが、商店街の協力や行政の積極的な支援により事業展開が可能に。

2 背景ときっかけ

- ・ 飛騨市は岐阜県の最北部に位置し、人口2.4万人、高齢化率38%（H30年）。
- ・ 坂本氏は、神岡地区（H30年の高齢化率は45%）の商店街の人通りの減少に危機感。



（図・飛騨市）

3 取組の内容

1. 事業の内容

- ・ H28より「まごころけいちゃん」が神岡地区で週6日（3コースを各2回）移動販売を開始。翌年、兄の良威氏がUターンし、古川地区で週6日移動販売を開始。
- ・ 野菜や肉等の商品のほとんどを商店街（9店舗）から仕入れ。
- ・ 総菜は経営する飲食店で調理し、日販品は通販仕入れで品揃え。



（写真・経営する飲食店と移動販売車）

2. 行政による支援

- ・ 市は、車両等の初期費用とともに運営費（燃料費、人件費等）も助成。
- ・ 市が、買物支援が必要な高齢者の情報の提供や、移動販売の事業者間の情報交換の場のセッティング等を行い、市内全域で移動販売を利用できる体制を構築。
- ・ 移動販売や宅配サービス、訪問理容等の情報を一元的にまとめた高齢者向けガイドを作成・提供。



（写真・暮らしガイド）

4 取組の効果

- ・ 地域の食料品スーパー等の閉店時も、移動販売により高齢者への影響は緩和。
- ・ 平成30年7月の豪雨時、坂本兄弟は一時的に孤立した集落において飲食物の提供を実施。食を守るライフラインとしての役割を果たす。

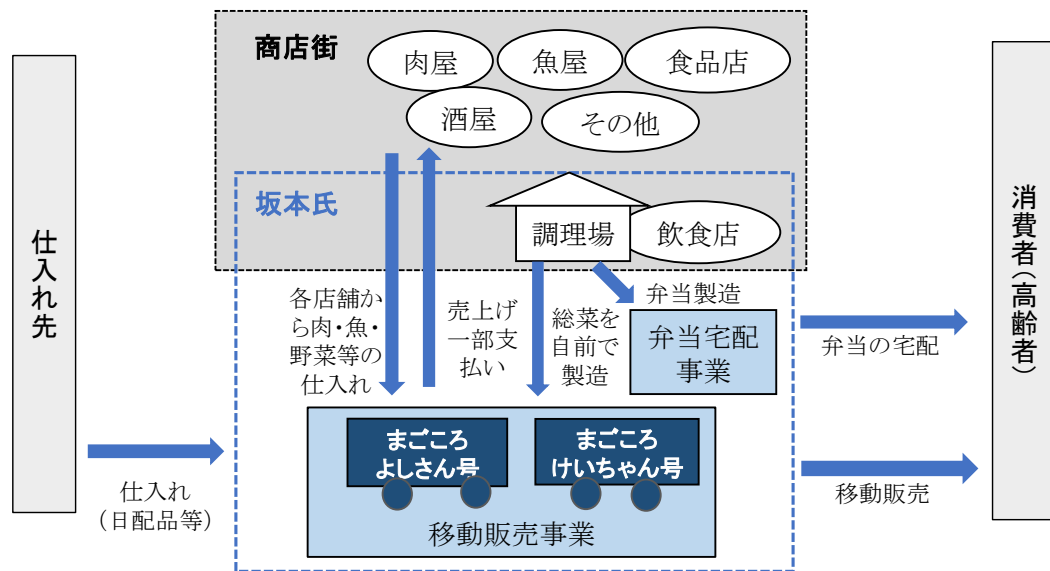
5 取組上の工夫

- ・ 経営する飲食店で総菜を調理することで移動販売の収益を改善、また高齢者等の健康を考えた弁当宅配も開始。調理場や時間の有効活用から、経営面で相乗効果が生まれる。
- ・ 先進事例等のノウハウから売れ残りを返品する仕組みを導入。生鮮品等は返品せず、顧客ニーズの把握で廃棄をゼロに。
- ・ 移動販売を「商店街を元気づける」「高齢者の生活支援」といった地域貢献事業と位置づけ、あえて個人商店から仕入れるビジネスモデルを考案。また、中山間地域でも移動販売を実施することが、商店街の信頼や行政からの支援の根拠に。

6 今後の展望

- ・ 地元若手有志らと商店街の休憩や交流の場をつくるNPOを立ち上げ、子ども食堂なども開催。

7 参 考



(図・事業イメージ)

(2018.7)

【問い合わせ先】 飛騨市役所 市民福祉部 地域包括ケア課 高齢支援係
住所: 岐阜県飛騨市古川町若宮2丁目1-60 電話: 0577-73-6233